

教育目標 心豊かにたくましく生きる力を育む ～輝き合う、認め合う、つながり合う子どもの育成～	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 教育目標をもとに、園内研修のテーマを決めたり、学校評価アンケートの項目としたりし、子どもの姿や保護者等の評価から達成状況を確認することができるように取り組んだ。全教職員、保護者も共に教育目標を意識することができ、一人一人の子どもが自己発揮し、互いを認め合う姿を確認することができた。次年度は、小学校に学びをつなぐことを意識した取組を進めたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校評価アンケートや、栽培や園外保育などでの子どもの姿から、一人一人の子どもの育ちを感じている。子どもたちに豊かな直接体験を願いサポートした中で、地域の豊かな自然に触れたり、地域の人との温かさを感じたりする経験となったことは嬉しいことである。情報社会、または様々に規制の多い昨今、思いきり、夢中になって遊ぶ体験は子どもたちにとって学びの多い体験である。また小学校との連携もこの地域ならではの強みである。学びをつなげていくためのサポートを今後も続けていきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月19日	学校運営協議会（書面＋聞き取り）
最終評価	令和7年3月12日	学校運営協議会

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組 ・子ども一人一人の表しを大切にした保育の中で、十分自己発揮し、互いに輝き合える保育の在り方を探り、日々の保育に生かす。 ・日々の子どもの姿から、『折り合う心』につながるエピソードや研究保育を通してカンファレンスし、教師の援助や環境構成を考える。 ・発達段階や興味に応じて、運動的遊びを十分に取り入れた保育を進める。また、自分で考えたり自己抑制したりして、自分で安全に気をつけて行動する力を身につけられるように関わる。 ・子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けられるように、保護者と共に『自立と自律』を育む援助を積極的に行う。 ・子どもの心が動いたり響いたりする「ほんまもん」の体験を大事にし、感じたり思ったりしたことを自分なりに表したくなる環境構成や教師の援助について考える。 ・子どもの興味関心を見取り、個々の姿に応じて環境を再構成し、遊びが深まっていくように援助する。 ・南浜地域の自然や伝統文化に触れ、親しみをもつ中で育まれる資質・能力について子どもの姿を通して確かめ保育に生かしていく。
--

- ・子どもが自分の体験に結び付けながらイメージを膨らませられるよう、遊びや生活に関連した絵本や物語を取り入れる。「親子で絵本！」を活用し、家庭とも連携して取組を進める。
- ・友達との関わりの中で、共感・葛藤・つまずきなどの体験を通して、折り合う心を育み、協力し合い互いに必要な存在であることの大切さを実感していけるように援助する。

（取組結果を検証する）各種指標

- 日々の幼児の姿の変容やエピソード検討に取り組み、個々の育ちを探る
- アンケート項目
 - 『園生活の中で、様々な成長がみられたか』
 - 『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』
 - 『絵本やお話に興味をもっているか』
 - 『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』
 - 『好奇心をもって遊んでいる』と感じるときはあるか』
 - 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』
 - 『友達や先生と一緒に活動する楽しさを味わう姿が見られるか』

中間評価

各種指標結果

- 日々の幼児の姿の変容やエピソード検討に取り組み、個々の育ちを探る
 - ・毎月の園内研修（保護者配布『月便りの子どもの姿』）、外部講師を招いての研究保育やエピソード研修をもとに、『折り合う心』の育ちにつながる、子どもの姿や教師の援助・環境構成について研修した。安心感をもとに、自分の思いを表す（自己表出・自己表現）、自分からひと・もの・ことに関わる（自己決定）が、自己とまたは他者と折り合うことにつながる土台であることが確かめられた。発達段階に応じた日々の遊びや活動の中で、折り合う心の育ちにつながる姿が見られ、それぞれの『今この瞬間』を大事に重ねること、個と集団のバランス、短期と長期を見通した保育を進めていくことが大事であることが確かめられた。
- アンケート項目
 - 『園生活の中で、様々な成長がみられたか』（保護者・教職員共に100%が「そう思う」と回答
 - 『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』（保護者92%・教職員100%が「そう思う」と回答
 - 『絵本やお話に興味をもっているか』（保護者88%・教職員100%が「そう思う」と回答
 - 『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』（保護者・教職員共に100%が「そう思う」と回答
 - 『「好奇心をもって遊んでいる」と感じるときはあるか』（保護者98%・教職員100%が「そう思う」と回答
 - 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』（保護者98%・教職員100%が「そう思う」と回答
 - 『友達や先生と一緒に活動する楽しさを味わう姿が見られるか』（保護者・教職員共に100%が「そう思う」と回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・教育目標・経営方針と共に、保育の充実・改善について、教職員には年度始め、その後も機会のあるたびに発信・共有の機会をつくったことで、同じ思いで取組を進める姿勢となっている。また保護者にも年度初めや園長講和などを通して発信したり、学校評価結果をもとに見直した取組についても具体的に発信したりしたことで、理解につながっている。

	・ I C T機器を用いて、視覚的に子どもの姿を伝えることでより保護者の理解につながった。 ・課題としては、絵本やお話への興味の項目については、他の項目に比べて低い傾向が見られた。
	分析を踏まえた取組の改善 ・後半も保護者が直接子どもの育ちを感じることができるよう保育参観の機会をもつ。 ・課題については、幼稚園での読み聞かせの場面での子どもの様子や姿を I C T機器などを用いて発信し、それぞれなりに関心を寄せたり、感じ取ったりしている姿を発信していく。また、家庭生活にもつながる取組を模索し、提案できるように取り組んでいく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討に取り組み、個々の育ちを探る ○アンケート項目 『園生活の中で、様々な成長がみられたか』 『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』 『絵本やお話に興味をもっているか』 『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』 『好奇心をもって遊んでいる』と感じるときはあるか』 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 『友達や先生と一緒に活動する楽しさを味わう姿が見られるか』
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・評価結果から、保護者が幼稚園教育を理解されていることが伺えた。参観などでの子どもの姿からものびのびと活動する姿が見られ、育ちを感じている。地域の子どもは地域で育てると言う思いで、引き続き、子どもが直接体験を通して豊かに育つことができるように、できることは協力したい。 ・絵本に関しては、園と家庭では関心のもち方に違いもあるのだろう。園での姿を伝え、子どもは絵本に親しんだり関心をもったりしていることを発信してほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討に取り組み、個々の育ちを探る ・前期に続いて、毎月の園内研修（保護者配布『月便りの子どもの姿』）を重ね、子どもの具体的な姿から、各学年の『折り合う姿』を捉えることができた。安心感・安定感のもとより、子どもに育てたい『折り合う力』とは、『自己選択』『自己決定』『向き合う力』が大事であり、自己充実の上に友達との『折り合い』につながっていくことが確かめられた。こうした研修での学びが保育に活かされ、より一人一人に寄り添った保育の改善や充実につながった。 ○アンケート項目 『園生活の中で、様々な成長がみられたか』（保護者・教職員共に100%が「そう思う」と回答 『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』（保護者95%・教職員100%が「そう思う」と回答 『絵本やお話に興味をもっているか』（保護者96%・教職員100%が「そう思う」と回答 『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』（保護者100%・教職員94%が「そう思う」と回答 『好奇心をもって遊んでいる』と感じるときはあるか』（保護者98%・教職員100%が「そう思う」と回答
--

『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 (保護者 98%・教職員 100%が「そう思う」と回答)	
『友達や先生と一緒に活動する楽しさを味わう姿が見られるか』 (保護者 98%・教職員 100%が「そう思う」と回答)	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 - アンケート結果は、概ね高評価であり、保護者が幼稚園の教育目標を理解し、子どもの育ちを感じられていることが伺えた。幼稚園の取組や子どもの育ちを保護者に伝える手段として、ICT活用を強化し、HPやSNSでの発信に取り組んだことも保護者の理解につながったと思われる。 - 一人一人の子どもの確かな育ちのために、教職員全体で連携・共有し保育を進めることができ、また地域の協力のもと、豊かなほんまものの体験をさせていただいていることも、保護者の評価につながっていると思われる。 - 異年齢との関わりは大事にしているが、より、園全体の活動を取り入れ、関わりを広げるための保育につなげたい。 - 個々の『自己発揮』『自己充実』については、エピソード検討や行事等の保護者評価から達成できたと思われる。次年度の課題としては、自他を含め、向き合う力の育成と共に、認め合う、つながり合う力の育成に取り組みたい。
	分析を踏まえた取組の改善 地域の豊かな自然環境に親しむ体験活動、異年齢との交流、小学校との連携接続については、今年度の成果や課題をいかし、次年度の保育計画に活かしていく。地域や小学校との連携をより深め、カリキュラムマネジメントをしていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 - 子どもたちの育ちのためにと教職員が保育を進めていることに対して評価している。より、幼稚園教育の理解が進むような発信や取組を期待している。 『地域の子どもは地域で育てる』『豊かな自然体験』『地域の伝統文化に親しむ』など地域の中で子どもたちのためにできる協力はしていきたい。

（２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組 - 継続可能な幼保小交流や連携の在り方を見直し、組織的に計画性をもって連携を進める。 - 幼保小の参観や行事や研修会を通して、互いに学び合う機会をもち、情報共有を行う。 - 公開保育における具体的な子どもの姿やエピソードをもとに発信し、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を小学校等と共有し、円滑な接続を図り、架け橋期の教育の質の向上につなげる。
（取組結果を検証する）各種指標 ○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード ○幼小連携、参観や公開保育・合同研修の回数（リモートも含める） ○アンケート項目 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』

	各種指標結果 ○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード ・今年度は『花売り屋さん』の取組のエピソードの中で、主に年長児の主体的な姿が多く確かめられた。行事を自分事と捉えての活動であるからこそその姿であり、まさに学びに向かう力につながると感じられた。3・4歳児も、それぞれの発達段階に応じた参加の中で、憧れの気持ち、もらった苗を大事にしようという思い、「ありがとう」の気持ちのやりとりなど、3・4歳児にとっても、育ちにつながる経験となったことが確かめられた。 ○幼小連携、参観や公開保育・合同研修の回数（リモートも含める） ・幼小連携については、連携主任が中心となり、子どものよりよい経験と育ちにつなぐ交流・連携を願い、小学校へ働き掛けている。エピソードをもとに、小学校とも連携を図り、昨年よりも少し進んだ取組となっている。中学校との連携も継続することができている。 ○アンケート項目 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 （保護者98％・教職員100％が「そう思う」と回答 『好奇心をもって遊んでいるか』 （保護者98％・教職員100％が「そう思う」と回答 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』 （保護者・教職員共に100％が「そう思う」と回答
自己評価	分析（成果と課題） ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿につながる姿が多く見られた。自立心や協同性・言葉による伝え合い・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚など、育ちにつながる姿が多く見られた。 ・花売り屋さんの参観は、保護者・小学校への発信子どもの学びに向かう力を発信する機会となり、理解につながった。 ・課題としては、エピソードや口頭でのやりとりは増えたので、対面での研修を実現できるようにしたい。 分析を踏まえた取組の改善 ・花売り屋さんでの年長児のエピソードをもとに、幼小での合同研修を実施し、子どもの遊びや活動の中での学びをつなげる機会をもつ。 ・小学校との密な連携の発信として、近隣の小学校長に、保護者対象とした『幼稚園と小学校をつなぐ子どもの学びや育ち』『互いを認め合う人権意識を育てる』をテーマにした講和を予定している。 （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード ○幼小連携、参観や公開保育・合同研修の回数（リモートも含める） ○アンケート項目 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 - 働き方改革の中での無理のない幼小連携の在り方を探り、子どもや教職員の交流を積極的に行ってほしい。 - 南浜地域運学校運営協議会などの機会も活用し、子どもの育ちがつながるように取り組んでほしい。
---------	---

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソードについては、園内研修や保護者宛てに配布する便り等、または日々の降園時の担任の話等で発信することができた。さらにホームページでの発信回数を前年度の1,7倍に増加し、SNSでの発信を含め、ICTを活用した取組を進めた。 ○幼小連携、参観や公開保育・合同研修の回数については、幼小での交流の機会が増えるようにと意識した取組を行い、前年度よりも小学校に出向く機会が多くなった。今年度は、近隣就学前施設の作品展を見に行くなど、就学前施設との連携も一歩前進した取組ができた。 ○アンケート項目 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 (保護者98%・教職員100%が「そう思う」と回答) 『好奇心をもって遊んでいるか』 (保護者98%・教職員100%が「そう思う」と回答) 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』 (保護者・教職員共に100%が「そう思う」と回答)
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 - 架け橋プログラムの取組のフェーズは進んではいないが、交流の回数や教員同士の連携など、担当同士の連携は進み、架け橋プログラムの取組に向かう土台ができてきた。交流を通しての子どもたちの育ちや学びは多く見られるので、今後は事前事後の話し合いの中で、互いの育ちを確かめていけるように組織的に取り組むことが課題である。 - 幼保小の参観や行事に参加する機会を増やすことができ、互いの教育を知ることにつながった。 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を視点とした具体的な子どもの姿やエピソードを小学校に発信し、幼稚園での学びや育ちを伝えることができた。また小学校長に年長児保護者への講演を依頼し、子どもの学び(幼小のつながり)、そして、子どもの人権等について話をしてもらい機会を設け、幼小の連携を保護者に発信し、理解につなげることができた。 - 架け橋プログラムについては、小学校が中心となり、連携接続について呼びかけてもらっている。次年度は、互いに顔が見える交流となり、互いを知ることができる機会をもち、今後の架け橋プログラムの充実につなげていきたい。 分析を踏まえた取組の改善 - 校長の講演以外は、これまでから継続している取組ではあるが、架け橋プログラムを意識して取り組むことで、フェーズを進めることができつつある。これこそが持続可能な取組だと思うので、土台を固めつつ、小学校や近隣就学前施設と連携し、互いの教育保育がつながる取組としていきたい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・小中と連携しやすい地域であることは強みである。これまでの交流や連携を継続し、子どもの育ちや学びをつなげてほしいと願っている。 ・幼稚園以降の小中学校へのサポートも大事にしている。卒園しても地域に見守られてることを感じてくれたら嬉しい。
---------	---

（３）預かり保育に関して

具体的な取組 ・預かり保育担当教員と担任や教職員との話し合いの時間を確保する。 ・『環境』の見直しを図り、共有と見える化を行う。優先順位を明らかにし、具体的にアップデートする。 ・課題については、具体的な解決に向けての援助を明らかにし、教職員間で連携を図る。 ・定期的に預かり保育の環境を見直し記録する。
（取組結果を検証する）各種指標 ○預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるよう機会をもつ。 ○『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。 ○アンケート項目 『絵本やお話に興味をもっているか』 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』

中間評価

各種指標結果 ○預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるような機会をもつ。 ・年度当初に担当者全員で、保育の見直しを行い、課題を出し合った。時間の確保が難しい中で、各自が思いを出し合えたことは、思いを共有につながる大事な機会となった。 ○『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。 ・年度当初の話し合いや昨年度の週案をもとに、年間計画を見直し、保育につなげることができている。担当だけではなく、関わる教職員全ての意見を取り入れ、よりより指導計画となるようにマネジメントしている。 ○アンケート項目 『絵本やお話に興味をもっているか』（保護者８８％・教職員１００％が「そう思う」と回答 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』（保護者・教職員共に１００％が「そう思う」と回答
自己評価 分析（成果と課題） ・様々な意見を取り入れ、できることから改善につなげることができている。（物的・人的環境の整備や安全面） ・預かり保育の時間を利用した多様な体験として、『ヒップホップダンス』を新たに取り入れた。親子共に喜ばれる取組となった。読み聞かせサークルによるペープサートが定着し、心待ちにし、絵本やお話に親しむ機会となっている。 ・夏の暑さが厳しく、夏季休業中の保育の在り方については、安全面と、子どもたちの遊びの保障の両立がとても難しく、今後の課題となった。

	分析を踏まえた取組の改善 ・よりより預かり保育を目指して、個々の姿や保護者のニーズに応じた預かり保育の在り方を検討する。また、検討する時間の確保に努め年間指導計画をマネジメントする。 ・さらに子どもたちが落ち着いて過ごしたり、異年齢児同士が関わったりできるような環境作りの工夫を重ねる。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ○預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるよう機会をもつ。 ○『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。 ○アンケート項目 『絵本やお話しに興味をもっているか』 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・保護者・教職員ともに評価が高く、預かり保育が子育て支援として役に立っていることは、地域にとっても大変喜ばしいことである。今後も就労している家庭へ、『預かり保育の実施』について周知できるよう、ポスター掲示や回覧板などの活用をしてほしい。できることは協力したいと思っている。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ○預かり保育での子どもの育ち（特に異年齢同士の関わり）を記録などから確かめることができた。 ○『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、人数に応じて保育室や担当者を配置し、子どもたちが安全に楽しく過ごすための保育内容の見直しや検討を行った。 ○PTAの読み聞かせサークルの協力のもと、毎月実施することができ、3学期には年長児がお手伝いという形での参加を提案いただき、よりお話に親しむ取組となった。 ○アンケート項目 『絵本やお話しに興味をもっているか』（保護者96%・教職員100%が「そう思う」と回答 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』 (保護者・教職員共に100%が「そう思う」と回答
	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・預かり保育のニーズは年々増加しており、参加人数も多かった。担当者やボランティア、必要に応じて担任も共に関わることで、安全に楽しく過ごすことができている。 ・預かり保育の環境の見直しを随時行ない、担当者の工夫により内容も向上している。 ・担当と担任での連携や共有は、それぞれの努力により行うことができているが、全教職員で預かり保育の内容等を検討したり、子どもの育ちを確かめたりする時間の確保は難しく課題が残っている。また環境構成等についての年間計画なども時間の確保が難しく同じく課題である。
	分析を踏まえた取組の改善 ・預かり保育の内容や環境を整えるための話し合いの時間の確保も取り組み、より充実した預かり保育を目指していく。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・就労家庭が多くなった実態から、預かり保育の重要性が高まっている。幼稚園でも長時間、子どもを預けることができることをより幅広く周知していく必要がある。 ・長期休業中の預かり保育実施日が保育所よりも少ないと、就労されている保護者の声がある。教職員の働き方改革も大事ではあるので悩ましいところである。
---------	---

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組 ・乳児期や入園前の保護者の子育ての喜びや悩みを出し合える場として、定期的に先輩ママとの座談会の場を設ける。 ・2歳児親子クラス・満3歳児クラス+預かり保育など、子育て支援の充実を図る。 ・活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページやアプリなどで保護者や地域の小規模事業所などに発信する。	(取組結果を検証する) 各種指標 ・子どもの理解に加え、保護者の思いも十分に受け止め、具体的支援を共に考えていく。その際に『内面』の成長にも気付けるよう、ICTも活用する。 ・保護者の子育ての喜びや悩みを出し合える場として、定期的に『ほっこり子育て広場』『先輩ママとの座談会』の場を設ける。 ・2歳児クラス・満3歳児預かり保育など、子育て支援の充実を図り、実践する。 ・活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどで保護者や地域の小規模事業所などに発信する。
---	---

中間評価

各種指標結果 ・今年度は伏見5園にキンダーカウンセラーが配置された。園内にカウンセラーが配置されたことで、気軽に悩みを相談できる場として活用されつつある。 ・幼稚園説明会などではICTを活用し、目には見えにくい子どもの育ち（非認知能力の育ち）の大切さが伝わるように発信する機会を増やしている。就労されている方も参加しやすいように、土日開催も行ったところ、ご家族で参加された方がおられた。 ・『ほっこり子育て広場』『ほっこり座談会』の場を定期的につくる中で、子どもの育ちを喜びあったり、悩みを相談したりできる場となっている。 ・5月より2歳児クラス『ふたば組』・9月より満3歳児預かり保育などを新たな取組を実施している。同じ年齢の子どもが親子で過ごす中で、保護者同士の関わりができたり、子どもを預けられることでリフレッシュできたりすることなど保護者支援につながっている。 ・活動計画については毎月ホームページやポスター掲示、配布物等で保護者や地域の小規模事業所などに継続して発信している。小規模事業所に通う保護者から関心をもつ声が聞かれている。	自己評価 分析（成果と課題） ・年度当初は参加が少なかったつぼみ組（0～2歳児親子）については、児童館や区役所等での発信の増加、絵の具遊びなど家庭ではできない遊びの提供、在園児との触れ合いなど、魅力ある内容を工夫したところ、参加人数が増え、継続して参加される方も増えている。南浜地域及び周辺地域における子育て支援センターとしての役割は、一定果たすことができている。 ・2歳児クラスについての周知が十分ではないため、より広く発信し、地域の幼稚園ならではの良さを知っていただき、活用していただけるように取り組みたい。
--	--

学 校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善 ・遊びの場・保護者同士の交流の場としての取組に終わらず、今こそ大事にしたい子どもの育ちや、それを支える幼稚園教育についての理解が進むような発信を工夫したい。(配布物・掲示物の内容・SNSの活用など) ・小学校との密な連携の発信として、近隣の小学校長に、保護者対象とした『幼稚園と小学校をつなぐ子どもの学びや育ち』『互いを認め合う人権意識を育てる』をテーマにした講和を予定している。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・子どもの理解に加え、保護者の思いも十分に受け止め、具体的支援を共に考えていく。その際に『内面』の成長にも気付けるよう、ICTも活用する。 ・キンダーカウンセラーの周知と活用を促す。 ・保護者の子育ての喜びや悩みを出し合える場として、定期的に『ほっこり子育て広場』『先輩ママとの座談会』の場を設ける。 ・2歳児クラス・満3歳児預かり保育など、子育て支援の充実を図り、実践する。 ・活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどで保護者や地域の小規模事業所などに発信する。
	学校関係者による意見・支援策 ・2歳児クラスや満3歳預かり保育の実施は、未就園児を育てる家庭にとって大きな支援であると思われる。周知する場を広げ、より多くの地域に周知できるように取り組んでほしい。運営協議会としても、地域内外の会合で周知していきたい。

最終評価

自 己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・クラス懇談や個人懇談の際に、子どもの理解や成長が伝わるようにICTを活用しながら、進めることができた。写真等があることで、より理解を進めることができた。 ・キンダーカウンセラーの活用を促すことで、保護者の心配事や悩みなどを緩和することができ、子育ての支援につながった。 ・『ほっこり子育て広場』『先輩ママとの座談会』などで、保護者同士がつながりを感じる場となった。(『ほっこり子育て広場』のアンケートからもそのような回答が多くあった) ・2歳児クラス・満3歳児預かり保育など、子育ての支援に力を入れて取り組んだ。継続した取組の中で、登録された保護者は、子どもの育ちを感じられている様子であった。 ・取組の発信については、幅を広げ、乳児健診時のチラシ配布、児童館については11施設への配布、または児童館に直接出向いての声かけなど、発信場所や配布の回数を増やして取り組んだ。未就園児クラスの登録数増加につながった。
	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・定期的に先輩ママとの座談会の場を設けたこと、未就園児クラス担当者のきめ細やかな関わりなどから、リピーターを増やすことができた。 ・チラシ配布や直接の声かけ等の場や回数を増やしてはいるが、幼稚園の取組が魅力のあるものと捉え、関心をもっていただけるような発信は課題と感じている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・幼稚園教育での子どもの学びや育ち、預かり保育の充実の発信などに、区役所や児童館との連

	携を深め、さらに力を入れて取組を進めていきたい。 ・未就園児クラスの、さらなる子育て支援の充実を図る。0歳児の発達に即した環境構成の設えや親子で楽しめる企画等の工夫、子育ての悩みを話せる雰囲気づくりなどを実践する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・未就園児の保護者にも、地域ならではの育ちを感じることができるよう、取組の発信や、その様子を見る機会を設けるなど、今年度の取組を次年度にもつなげてほしい。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・取組を学区諸団体や運営協議会（きらきらきつず）や行事予定などで発信する。 ・運営協議会を中心とし、子どもの活動を持続可能で多様なものにする。（こいのぼりボールたて・園畑づくり・田んぼ遊び・年間を通したお米づくり・花売りやさん・伏見祭・十石舟乗船・昔遊びなど）その中で、地域の方と子どもたちがつながり、親しみを感じると共に、地域の伝統文化に触れ地域に愛着をもつことができるように年間計画に位置付ける。
（取組結果を検証する）各種指標 ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち ○アンケート項目 『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』

中間評価

各種指標結果 ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ・継続して地域の会合中で幼稚園の保育の様子や未就園児クラスの取り組みなどを発信している。 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち ・今年度も引き続き小学校2年生との連携事業として『稲の栽培』に取り組んでいる。地域の方の田んぼに何度も遊びに行かせていただくなど、豊かな体験の場を提供してくださっている。また今年度はさつまいもだけではなく玉ねぎの栽培にもご協力いただいた。子どもたちが、運営協議会理事の方だけでなく、地域の方々の名前を覚え、親しみを感じ、見守られている安心感をもつことができた。 ○アンケート項目 『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』 （保護者・教職員共に100%が「そう思う」と回答	
自己評価	分析（成果と課題） ・地域の会合などでの発信から、幼稚園教育に関心をもつ地域の方が増え、運動会にたくさんの来賓が参観にきてくださった。 ・今年度の新たな取り組みとしての玉ねぎ栽培では、子どもたちが収穫の喜びや、数や量を感じるなど様々な学びとなる機会となった。その後、家庭や園で調理してみんなで食べる喜びにもつながり食育にもつながっている。

	・憧れのお米作りができる喜びを子どもたちが感じている姿が見られる。また本物の田んぼを見たり遊んだりできる機会をつくってくださったことは、子どもの感動体験につながった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・南浜幼稚園ならではの取組や体験を通しての育ちを学校運営協議会や地域の方々に、さらに詳しく明確に伝え、新入園児数の増加にもつなげていきたい。 ・地域の伝統文化を感じ、親しみを持つことができるように、今後も地域の方のご協力を得ながら、子どもたちの育ちにつなげていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とそこでの子どもの育ち ○アンケート項目 『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・地域の祭りやお米や野菜の栽培などを通して、地域と園児との直接の触れ合いを積極的に行えている。南浜幼稚園ならではの強みを生かした取組に今後も継続して協力したい。豊かな体験を通して子どもたちの育ちを支えていることをより多くの方に発信してほしい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とそこでの子どもの育ち ・継続して地域の会合中（地域会合回数は前年度同様）で幼稚園の保育の様子や未就園児クラスの取り組みなどを発信している。 ・『きらきらキッズ便り』（運営協議会の取組発信）も継続して年2回発行。 ・作品展や生活発表会参観を通して、子どもの姿を発信。 ○アンケート項目 『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』 （保護者・教職員共に100%が「そう思う」と回答）
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・回数的には前年度同様の実施。運営協議会、地域の方とは名前を呼べる関係となっている。 ・お米作りなどの栽培活動については、子どもたちの気づき、関心を高まりなど、学びにつながる姿が多く、また遊びや生活の中で取り入れる姿となった。 ・取組の発信を継続することで、地域の応援団として力を発揮していただいている。 ・例年通りの運営協議会を中心とした活動を年間計画に位置付け、継続できたことで、子どもたちが多様な経験をすることができた。地域の方と子どもたちがつながり、親しみを感じると共に、地域の伝統文化に触れ地域に愛着をもつ子どもの姿が多く見られた。 ・小学校や近隣の就学前施設と関連する取組についても、運営協議会や地域の方の支援のもと、連携を深めた取組としていきたい。

	分析を踏まえた取組の改善 ・運営協議会や地域の方とのつながりがより深まるように、今年度同様に、全教職員や保護者に、取組の発信を続けたい。（口頭、紙面を通じて）
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・幼児期に必要な直接体験については、できる協力を継続して行っていきたい。 ・地域の子どもたちが安全に安心して過ごすことができるように、今後も支援していきたい。 ・社会や時代の変化と共に、子育てに対する考え方も多様になってきている。地域の応援団として、ゆとりをもって子育てができるように支援していきたいと思っている。

（６）教職員の働き方改革について

重点目標 ・教職員一人一人が自らの健康や生活を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う
具体的な取組 ・それぞれが自分の担当業務を理解し、企画、取組などを率先して進めようとする意識をもつ ・それぞれ担当の指示で、同時に様々な業務を進めていく体制をつくる
（取組結果を検証する）各種指標 ○教職員の勤務時間（残業時間）の推移 ○年休や特休などの取得率

中間評価

	各種指標結果 ○教職員の勤務時間（残業時間）の推移 ・職員会の回数を減らしつつも、保育の質を保つことができるように、情報共有や連絡・連携をしていけるように、ホワイトボードにより細かく連絡事項を記入したり、各自に配布したりするなどして時間短縮できるように取り組んでいる。 ○年休や特休などの取得率 ・必要な時に必要な日数を休むことができている。年休取得率は高くなっている。また、互いに声をかけあい、休憩時間を確保している。
自己評価	分析（成果と課題） ・教職員の業務軽減につながるように、校務支援員が役割を果たしている。 ・仕事の役割分担を明確化し、担当から全体に仕事を伝え、効率よく進めていけるように工夫する。
	分析を踏まえた取組の改善 ・一人一人の教職員が計画的に業務を行ったり、担当者が指示をしたりして、短時間で進行できる工夫を継続する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○教職員の勤務時間（残業時間）の推移 ○年休や特休などの取得率

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・様々な対応や子育て支援、就労支援など、抱える業務は多いと思うが、教職員の心身の健康を大事にしてほしい。効率よく業務を進められるように、環境整備など運営協議会としても支援していきたい。
---------	--

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ○教職員の勤務時間（残業時間）の推移 ・行事前などは、残業時間が増える傾向があるが、残業時間の増加は見られない。 ○年休や特休などの取得率 ・必要な時に必要な日数を休むことができている。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・園長会の取組であるコンプライアンスチェックシートについて、毎月共有していることで、個々の意識にもつながっている。そのことから、重点目標については概ね達成できていると思われる。 ・仕事の役割分担を明確化し、担当から全体に仕事を伝え、効率よく進めているが、勤務時間がそれぞれに違うため、時間の調整が難しく担当者の負担軽減が課題である。 ・常に保育をしている中で、休息時間の確保が難しい現状がある。互いに声を掛け合うだけでなく、それぞれのシフトに応じた休息時間の確保に努めたい。 分析を踏まえた取組の改善 ・チェックシートの取組を継続すると共に、形骸化することのないよう管理職の意識を高める。 ・行事の進め方について、職員会で共有しておく事項を具体化し、共有方法の見える化をするなど担当者の負担削減に努める。 ・休息時間についても、シフトに応じた休息時間を検討し、共有していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どものためにという思いをもち、よく頑張ってもらっていると感じている。幼稚園をサポートできるように、協力していきたいと思っている。